

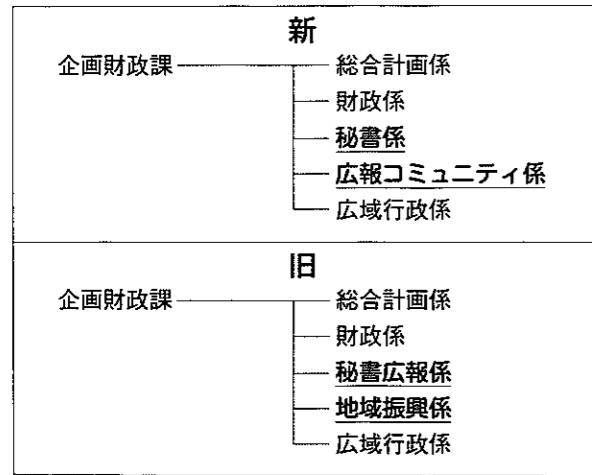
4月1日から市役所の一部組織と業務内容が変わります

下記以外の係や業務内容は従来どおりです。
 ■…従来の課 ☆…新しくできる係 ★…業務内容が変わる係

■企画財政課

☆秘書係
 秘書広報係の秘書業務を独立させます。
 主な業務…市長と助役の秘書、儀式・ほう賞・表彰に関することなど

☆広報コミュニティ係
 秘書広報係の広報広聴業務と地域振興係を統合します。
 主な業務…広報しろねの発行、市政懇談会の開催、自治会等住民組織等との連絡調整、地域づくり活動の支援、国際交流の推進など



■総務課

★管財係
 公用車の管理一元化と一部事務の見直しを行います。
 ・公用車の管理に関する事務の拡大
 ・庁中物品の調達に関する事務を削除

■市民生活課

★保険年金係
 年金事務の移管により、業務の見直しを行います。
 ・国民年金第3号被保険者にかかる届け出の受理に関する事務の削除
 ・国民年金保険料の収納および還付に関する事務の削除

■下水道課

★下水道係
 平成15年度の下水道一部供用開始に向けて、業務を拡大します。
 ・浄化センターに関する事務と中継ポンプ場に関する事務を追加

■農業委員会事務局

☆業務係
 事務の効率化と市民サービスの向上のため、農地係と農政農業振興係を統合します。

それぞれの地域の特性と個性を生かした 分権型政令指定都市を目指す

新潟都市圏の将来像を考えるシンポジウム

二月二十二日、新潟市で「新潟都市圏の将来像を考えるシンポジウム」が開催されました。
 これは、新潟都市圏総合整備推進協議会（新潟市、新津市、両津市、白根市、豊栄市、聖籠町、横越町、亀田町で組織）と新潟広域行政懇話会が構成する「新潟都市圏シンポジウム実行委員会」が主催したもので、住民や関係者など約七百人が参加しました。



シンポジウムは、長谷川義明氏（前新潟市長）の基調講演の後、七首長によるパネルディスカッションが行われ、昨年、同協議会が策定した新潟都市圏ビジョンを基に、政令指定都市を目指す新潟の将来像について語り合いました。



その中で吉沢市長は、同ビジョンに示されている南部軸の役割について、「白根地域（白根市・味方村・月潟村・中之口村）は農業生産性に優れており、全県でもトップクラス。これを生かしながら、総合食料基地という機能を果たしていきたい。また、白根大風合戦や月潟村の角兵衛獅子などの観光面についても、他と連携しながら担っていきたい」と発言。これからのまちづくりについては、「新市ができ、圏域が大きくなっても、まちを支えていくのは今までの地域であり、その地域が生き生きと輝いていけるシステムをつくっていくことが大切。市民の皆さん一人ひとりが主体である意識を持ちながら、これからのまちづくりを進めていきたい」と話しました。
 最後に篠田新潟市長が「地域の独自性を確保して、分権型政令指定都市をつくってほしい」と決意を述べました。

白根市地域生活センター設置条例を一部改正

第1回市議会臨時会

第一回市議会臨時会が二月十九日に開かれ、白根市地域生活センター設置条例の一部改正や議会人事など四議案の審議を行い、すべて可決・承認しました。

議会人事

次のとおり、議会運営委員の補欠選任と、常任委員会の委員の所属変更がされました（敬称略）。
 ●議会運営委員の補欠選任
 関根省三
 ●常任委員の所属変更

可決された主な議案
 ●白根市地域生活センター設置条例の一部改正について
 市で行ってきた地域生活センターの管理運営を、地域で組織する管理運営委員会に委託することを可能にするため、一部改正を行いました。平成十五年度から新飯田・小林・鷲巻・根岸地区で、センターの地元管理が実施されます。

毎秒43トンの排水能力

中部排水機場完成

白根郷の湛水被害を軽減するため、国営総合農地防災事業で、平成十一年度から工事を進めてきた中部排水機場が、このほど完成しました。
 中部排水機場は、郷内の豪雨時に稼働し、郷内中流部の排水を行います。完成した口径二・二メートルのポンプ二台と、既設の口径一・九メートル二台を合わせ、最大で毎秒四十三トンの排水が可能になりました。
 郷内全体の排水能力は、すでに完成している菅場排水機場と、大通川下流にある白根排水機場を合わせて毎秒八二・八トンでしたが、中部排水機場完成により、毎秒一〇八・七トンに増強されました。

まちづくりのシンポジウム

21世紀・しろね地域のまちづくり

二月二十三日、白根学苑館ラステックホールで、市民ら二百人が参加して「21世紀・しろね地域のまちづくり」シンポジウムが開催されました。これは白根ロータリークラブ・白根ライオンズクラブ・白根青年会議所が主催したものです。
 講演会では、大分県長湯温泉で旅館を経営している首藤勝次さんが、以前勤めていた直入町役場での経験を基に、まちづくりについて話しました。直入町は温泉を活用して、五年間で、観光客を二倍の七十五万人に増やすなど、活力あるまちづくりに取り組んでいます。



首藤さんは「地域の歴史や文化を磨かないと、活気がなくなってしまう。続いて行われたパネルディスカッションでは、行政や議会、農業者、市民の各代表がしろね地域のまちづくりについて意見を交わしました。



「地域に根ざした文化、個性を大切にし、住民一人ひとりが参加したまちづくりを進めたい」と吉沢市長。農業者代表の石山JA白根市果樹部会長は「消費者ともっと交流し、農業について理解を深めたい」と話しました。

また市民代表の和久井学さんは「白根地域には、たくさんのおじやうやタナゴが住んでいます。この環境を次世代に残せるよう、農業と自然環境が共存できるまちづくりが理想です」と述べるなど、それぞれの思いを語りました。